

はじめに

(1) 策定の趣旨

だれもがこのまちに住むことの誇りとこのまちへの愛着をもちつつ、ずっとここでくらし続けたいと思えるようなまち・京都にしたい。くらしに「安らぎ」があり、まちに「華やぎ」がある、そういう住みやすい場所・京都にしたい。こうした「くらしとまちづくり」を実現するため、京都市は、21 世紀の最初の四半世紀における京都のグランドビジョンとして「京都市基本構想」（平成 11 年 12 月）を策定した。この基本構想においては、ものづくりの伝統を生かし、産業経済に活気のある華やいだまちをつくっていくため、伝統産業から先端技術産業まで、高品質及び長寿命で付加価値の高いものづくりの技や高度な情報技術、更には洗練されたデザインや斬新な企画力を持つ京都独自の産業システムを構築し、様々な産業が互いの技術にも企業文化にも厚い信頼を置き、相互にきめ細かく支え合う「産業連関都市」を構築していくこととした。

そして、京都市基本構想を具体化するため、「京都市基本計画」（平成 13 年 1 月）を策定し、産業連関都市の構築に向けた施策を示した。

更に、産業連関都市の構築を目指し 21 世紀の「ものづくり都市・京都」の活性化を図るため、「京都市スーパーテクノシティ構想」（平成 14 年 3 月）を策定した。この構想の実践に当たっては、伝統は革新の継続によって作られる「革新への挑戦」と、知恵と感性を基盤とした革新の精神である「創造的アルチザンシップの発揮」という、1200 年を超える歴史の中で受け継がれてきた二つを行動理念に据え、創業・新事業創出の取組に加え、立地環境の整備や新規成長産業分野への支援など、国、府や経済界のほか、大学、企業等との産学公の幅広い連携の下、各種施策に取り組んできた。

こうした中、21 世紀のものづくりの方向性と国内外の状況の変化を踏まえ、「ものづくり都市・京都」の更なる活性化を図るため、京都市スーパーテクノシティ構想を一層推進するための行動計画として「京都市産業科学技術振興計画」を策定することとした。

この計画は、国の第 3 期科学技術基本計画との整合性を図りながら、産業科学技術振興という視点から「京都市産業科学技術振興計画策定委員会」の委員やスーパーアドバイザーの方々をはじめ、市民、企業等の皆様からの貴重な御意見や御提言を基に、産業科学技術振興の基本的方向、重点推進施策及び推進体制を取りまとめたものである。

用語解説

アルチザン

通常「職人」の意味で使われるが、ここでは既成の枠にとらわれずに自由に発想し、自分の経験や五感をフルに稼働させ、技術を駆使し、英知を傾けて満足のいくものづくりを追及しようとする創造的な人材をイメージしている。このような人間の知恵や感性を基盤にものづくりの革新を担う人材が有する精神を京都市スーパーテクノシティ構想においては「創造的アルチザンシップ」と呼んでいる。

(2) 策定の背景

京都市では、市内ものづくり産業の現状を把握するため、平成 15 年度に「京都市ものづくり産業調査」を実施した。この調査は、市内製造業等の 9,000 を超える全事業所を対象に調査員が直接足を運び聞き取りする「アンケート形式」として、90%を上回る 8,670 事業所から回答を得たものである。

この調査の結果、企業の強みは「技術力・製造（加工）精度」、「品質管理」、「熟練技術者」であり、今後強化したいものは「技術力・製造（加工）精度」、「販売力・ブランド力」、「企画力」であることが明らかとなった。（表 1 参照）

また、何らかの研究開発を行っている企業は、全事業所の 24%を占め、全国に比べても高い数値が見られた。（表 2 参照）

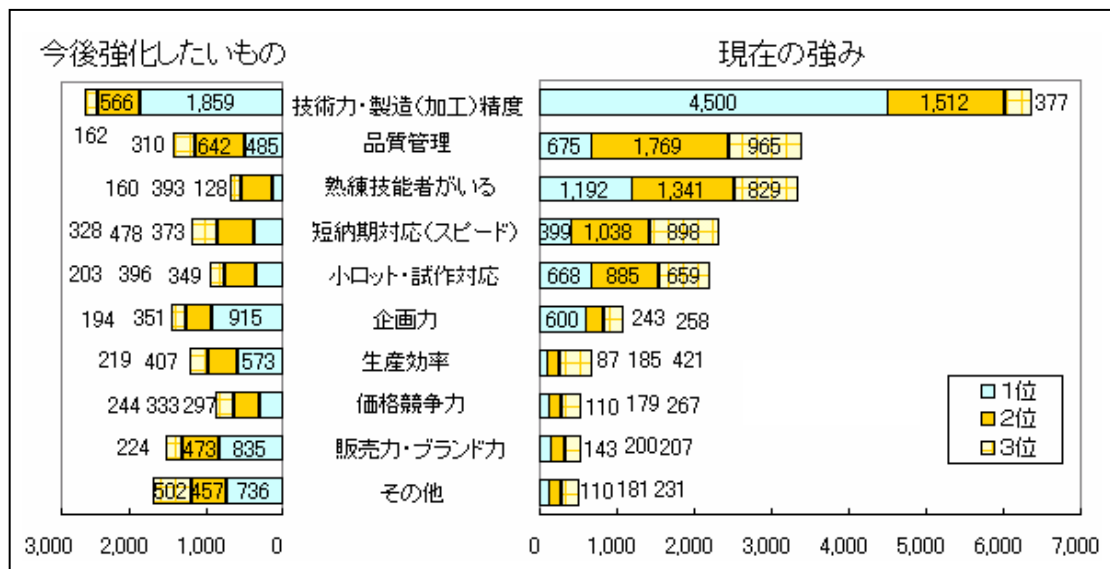
更には、産学連携の実績のある事業所については、技術レベルの向上、ノウハウの蓄積、製品開発の成功など 85%が成果があったと回答している。

こうした調査結果から、「ものづくり都市・京都」の更なる活性化の実現を図るには、企業の強みであり最も強化したいと考えている「技術力」の向上を支援することが求められている。

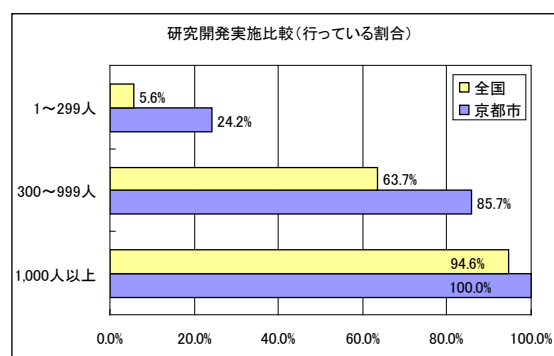
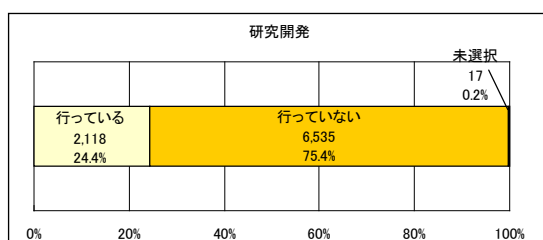
一方、京都市スーパーテクノロジー構想においては、下表にあるように 5 つの目標数値を掲げている。そのうち開業率については、若干の上昇は見られるものの目標達成までには厳しい数値であるが、大学発ベンチャー 200 社、京都市ベンチャー企業目利き委員会 A ランク認定企業 100 社の達成率は、平成 17 年度末現在、40%を超えている。こうした状況の下、京都市スーパーテクノロジー構想を一層強力に推進するため、科学技術の側面からの「総合的な技術力」の向上に関する施策を盛り込むことが求められている。

スーパーテクノロジー構想に掲げる目標	平成 17 年度末の数値	目標数値（平成 22 年度）	達成率
開業率	2.5%/年	10%/年	25.0%
大学発ベンチャー企業	89 社	200 社	44.5%
オスカー認定企業	63 社	100 社	63.0%
目利き委員会 A ランク認定企業	48 社	100 社	48.0%
シニアベンチャークラブ	390 名	1000 名	39.0%
		平均	43.9%

■表 1 企業として「強い」「強化したい」と思う項目



■表2 研究開発実施の割合



(3) 計画期間

この計画の期間は、京都市スーパーテクノシティ構想と同様、2010年（平成22年）までとする。

また、この計画の推進に当たっては、各施策の進捗^{ちよく}状況や社会状況の変動などに応じて適宜見直しを行う。

Column 伝統を「先進」につなぐ取組

京都における日本を代表する優れた伝統技術を持つ産業の集積が、今日の先進的な技術に貢献しています。

- ➡ 京都市にある創業1700年の金属素材メーカーでは、屏風や蒔絵などに使われていた金属箔粉の技術をベースに、自動車や電子機器などの部品材料を開発し、先進企業を支えています。現在では、限りなく薄い箔、限りなく細かい粉末、限りなく丸い球体粉などに組み組み、ナノテクノロジーの世界で高度な製造技術を生み出し続けています。
- ➡ 京都工芸繊維大学などでは、伝統的な組紐、編物、織物などの技術に内在している知恵を、先進的な材料の開発技術へ応用して、より安全・頑丈な、より柔軟な環境適合型素材（例：組紐技術を用いた機能性パッキン等）を研究しています。

